

# 村のささやかな一軒の店屋

文化振興課市史編纂担当 松井直樹

江戸後期、江原村の中を通る街道沿いに瓶屋長左衛門という名の店があり、実に多くの品物を商っていました。材木の多くは、岡崎や豊田の間屋から仕入れ、矢作川を利用して運び、西浅井土場から陸揚げしていました。反物類は、西尾肴町の釘清商店や近江商人から仕入れ、西尾からのものより近江からのものの方が安価に売られていました。草履・わらじ・げたは、西尾の町や近隣から仕入れ、近江商人が足袋類を納めています。ねり油・ろうそく・線香など日用品の多くは、肴町の釘屋晴助や本町の煙草屋(伊藤)小兵衛から仕入れ、この2店が西尾の大問屋でした。ここでも、近江の綿屋が若狭のろうそくを、名古屋の紅葉屋が油や線香を納めています。食料品は、本町の戸ヶ崎屋(近藤)勝右衛門がたまりを、中町の

土台屋太助が焼き麩(ぶ)を納め、吉良富田の酢や岡崎福岡の茶なども売られていました。中でも黒砂糖の2倍の価格という高級品の白砂糖も扱っていて、江原村や近隣の村でもこれを需要した階層があったのでした。文房具は、煙草屋小兵衛と釘屋晴助が各地・各種の紙を、足助の紙屋茂八が杉原紙や美濃紙の高級品を、近江や矢作の商人が筆墨を納めています。釘は、須田の鍋屋のほかに八ツ面村の鍛冶屋からも直接仕入れ、火縄・付け木・火口などは、煙草屋小兵衛が唯一の窓口でした。

このように、村の一軒の店で近隣の村人の要求を満たすためには、遠方や多方面からの仕入れが必要でした。仕入れには、西尾の町の商圈はもちろんですが、平坂湊や矢作川の存在も大きな役割を果たしていました。

# キッズアルバム



鈴木 遥馬くん  
(吉良町)

平成24年8月生まれ  
遥くんのおかげで毎日  
幸せ。これからもいっ  
ぱい思い出作ろうね♡



梅田 悠希くん  
(下永良町)

平成24年2月生まれ  
いつも元気なはるくん。  
これからも元気に育っ  
てね。



林 杏ちゃん 蒼真くん  
(上矢田町)

平成24年8月生まれ  
家族みんな杏ちゃんと蒼ちゃん  
のことが大好きです。これからも兄  
弟仲良く、元気に大きく育ってね。



鈴木 照万くん  
(桜町)

平成24年8月生まれ  
食欲旺盛♡笑顔満点♡  
照くん、これからもス  
クスク育ってね。



片山 幸郁ちゃん  
(伊藤五丁目)

平成24年8月生まれ  
とてもやんちゃだけど  
甘えん坊で泣き虫なゆ  
いちゃん。大好き♡



石川 紹巴くん  
(一色町)

平成24年8月生まれ  
やんちゃで外遊びが大  
好きなじょう♪元気に  
大きくなってね。



星野 季希ちゃん  
(吉良町)

平成24年8月生まれ  
笑って泣いていつも元  
気いっぱい！季希、か  
わいい笑顔ありがとう♡

